

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

| | | |
|-------------|--------------------|------|
| 団 体 名 | 公益財団法人 長岡市芸術文化振興財団 | |
| 施 設 名 | 長岡リリックホール | |
| 助成対象活動名 | 公演事業・人材養成事業・普及啓発事業 | |
| 内定額(総額) | 13,422 | (千円) |
| 公 演 事 業 | 4,951 | (千円) |
| 人 材 養 成 事 業 | 3,497 | (千円) |
| 普 及 啓 発 事 業 | 4,974 | (千円) |

(2) 平成30年度実施事業一覧

| 【公演事業】 | | | | | |
|----------------|---|-------------------|--|----------|----------------|
| 番号 | 事業名 | 主な実施日程 | 概要 (演目、主な出演者、 スタッフ等) | 入場者・参加者数 | |
| | | 主な実施会場 | | 目標値 | 実績値 |
| 1 | 文学座公演 「怪談 牡丹灯籠」 | 4月27日(月) | 【出演】早坂直家、富沢亜古、沢田冬樹、岡寛恵、采澤靖起、永宝千晶 | 目標値 | 360人 |
| | | 長岡リリックホールシアター | | 実績値 | 290人 |
| 2 | 30th Anniversary JAZZ LIVE 寺井尚子 JAZZコンサート | 6月9日(土) | 【出演】寺井尚子、北島直樹、金子健、荒山諒 | 目標値 | 560人 |
| | | 長岡リリックホールコンサートホール | | 実績値 | 578人 |
| 3 | TOKI 弦楽四重奏団コンサート | 7月29日(日) | 【出演】TOKI 弦楽四重奏団、平山友紀子(ゲスト)/小熊佐絵子(ゲスト)/福富祥子(ゲスト) | 目標値 | 420人 |
| | | 長岡リリックホールコンサートホール | | 実績値 | 302人 |
| 4 | 野村万作・萬斎 狂言会&ワークショップ | 10月25日(木) | ①演目/小舞、蚊相撲、千切木 【出演】野村万作、野村萬斎 他 ②狂言ワークショップ 【出演】深田博治、中村修一 他 | 目標値 | ①400人 ②350人 |
| | | 長岡リリックホールシアター | | 実績値 | ①435人 ②419人 |
| 5 | 長岡リリックホール 開館記念日コンサート | 11月1日(木) | 【出演】坪内麗音、シモン鈴木、腰塚賢二、アンサンブルオビリー | 目標値 | 560人 |
| | | 長岡リリックホールコンサートホール | | 実績値 | 267人 |
| 6 | 第16回澤クワルテットコンサート | 11月18日(日) | 【出演】澤クワルテット 【曲目】ハイドン/弦楽四重奏曲ハ長調 op.76-3「皇帝」など | 目標値 | 420人 |
| | | 長岡リリックホールコンサートホール | | 実績値 | 287人 |
| 7 | 第17回リリックホール コーラスフェスティバル | 12月9日(日) | 【出演】アマチュアコーラスグループ35団体が出演 | 目標値 | 700人 |
| | | 長岡リリックホールコンサートホール | | 実績値 | 600人 |
| 8 | リリックジュニアフェスティバル2018 | 12月16日(日) | 【出演】小学生から高校生までの子ども達 | 目標値 | 400人 |
| | | 長岡リリックホールコンサートホール | | 実績値 | 400人 |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| 平成30年度の目標値、実績値 | | | | 目標値 | 4,170 |
| | | | | 実績値 | 3,578 |

(2) 平成30年度実施事業一覧

| 【人材養成事業】 | | | | | |
|----------------|----------------------------------|--------------------|--|----------|------|
| 番号 | 事業名 | 主な実施日程 | 概要 (演目、主な出演者、 スタッフ等) | 入場者・参加者数 | |
| | | 主な実施会場 | | 目標値 | 実績値 |
| 1 | 熱中！感動！夢づくり教育 東京フィル夢づくり 楽器ワークショップ | 7月3日（日） | 【対象】 中学校吹奏楽部 【講師】 東京フィルハーモニー交響楽団団員（35名） | 目標値 | 400人 |
| | | 長岡リリックホール 全館 | | 実績値 | 298人 |
| 2 | 長岡フェニックス合唱団 育成事業 | 通年 | 【対象】 高校生以上 【内容】 毎週木曜日の定期練習のほか、公演出演など。 【講師】 浅井隆仁 | 目標値 | 70人 |
| | | 長岡リリックホール コンサートホール | | 実績値 | 92人 |
| 3 | 衛紀生プロデュース 演劇活性化事業 | 9月3日（月）～2月23日（土） | 【出演】 植田真介、永川友里、岡本温子、渡辺徹など文学座所属俳優 | 目標値 | 120人 |
| | | 長岡リリックホール及び市内各所 | | 実績値 | 311人 |
| 4 | 長岡少年少女合唱団 育成事業 | 通年 | 【対象】 小学生から高校生 【内容】 週2回の定期練習のほか、演奏会出演など。 【講師】 中村美智子 | 目標値 | 45人 |
| | | 長岡リリックホール | | 実績値 | 46人 |
| 5 | ジュニアミュージカル育成事業 | 通年 | 【対象】 小学生から高校生 【講師】 ミュージカルカンパニー・イツフォーリーズ | 目標値 | 40人 |
| | | 長岡リリックホール | | 実績値 | 33人 |
| 6 | ジュニアストリングオーケストラ育成事業 | 通年 | 【対象】 小学生から高校生 【内容】 月2回の定期練習など。 【講師】 佐々木将公（ヴァイオリン）片野大輔（チェロ）ほか | 目標値 | 40人 |
| | | 長岡リリックホール | | 実績値 | 29人 |
| 7 | 1日限りの吹奏楽部in長岡 | 3月10日（日） | 【対象】 一般／吹奏楽経験者 【内容】 吹奏楽ワークショップ 【曲目】 スーザ・雷神など 【講師】 高橋秀典ほか | 目標値 | 80人 |
| | | 長岡リリックホール 全館 | | 実績値 | 42人 |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| 平成30年度の目標値、実績値 | | | | 目標値 | 745 |
| | | | | 実績値 | 851 |

(2) 平成30年度実施事業一覧

| 【普及啓発事業】 | | | | | |
|----------------|---------------------------------------|---------------------------------------|---|----------|--------------------|
| 番号 | 事業名 | 主な実施日程 | 概要 (演目、主な出演者、 スタッフ等) | 入場者・参加者数 | |
| | | 主な実施会場 | | 目標値 | 実績値 |
| 1 | リリック子ども音楽館 0歳からの東京フィルわ くわくコンサート | 8月19日(日) | 【出演】東京フィルハーモニー交 響楽団、岸本祐有乃(指揮) 【曲目】凱進行進曲(ヴェル ディ)、威風堂々(エルガー)など | 目標値 | 600人 |
| | | 長岡リリックホール コンサートホール | | 実績値 | 700人 |
| 2 | 東京フィルアウトリーチ わくわくコンサート | 6月25日(月)~27日(水) | 【対象】①小・中学校(5校)②保 育園(5園) 【内容】①/金管五重奏②/フ ルート三重奏) | 目標値 | ①1,000人 ②1,000人 |
| | | 市内小学校 | | 実績値 | ①780人 ②660人 |
| 3 | 東京フィルアウトリーチ コミュニティコンサート | 5月14日(月)~16日(水) | 【対象】①長岡市内のコミュ ニティセンター(7会場)②長岡市内 の保育園及び聾学校(3会場) | 目標値 | 2,500人 |
| | | 10月29日(月)~31日(水) 市内コミュニティセン ター等 | | 実績値 | 1,560人 |
| 4 | 地元アーティスト 学校アウトリーチ | 9月4日(火)及び 9月6日(木) | 【対象】市内小学校3校 【実施内容】①声楽コンサート、 ②室内楽コンサート | 目標値 | 200人 |
| | | 市内小学校 | | 実績値 | 179人 |
| 5 | リリック ママコンサート | 2月26日(火) | 【対象】一般(妊婦、0歳から) 【出演】五十嵐郊味(ソプラ ノ)、高橋朝子(ピアノ)ほか | 目標値 | 100人 |
| | | 長岡リリックホール 第1スタジオ | | 実績値 | 90人 |
| 6 | リリック ホワイエコンサート | 9月20日(木) | 【出演】アンサンブル・オビリー 【曲目】パッヘルベル/カノン、 モーツァルト/アイネ・クライ ネ・ナハトムジークほか | 目標値 | 100人 |
| | | 長岡リリックホール ホワイエ | | 実績値 | 260人 |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| 平成30年度の目標値、実績値 | | | | 目標値 | 5,500 |
| | | | | 実績値 | 4,229 |

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

主な事業の組み立て

○地域拠点事業の活用

東京フィルや文学座のネットワークやノウハウを活用し、地域に根付いた公演やワークショップを開催する。保育施設や学校、福祉施設等へプロのアーティストと出向き、積極的に交流し、教育現場や福祉現場、地域の課題解決に貢献する。

○市民協働事業の推進

東京フィルや文学座、地元文化団体等と連携して社会包摂的の市民参加型事業を制作し、発信する。

○ジュニア育成事業の推進

未来を担うジュニア世代の情操と人材育成のために、芸術文化に親しむ場と技術向上の機会を提供する。また、東京フィルや文学座、アーティストと共演する機会を提供し、出演者等との交流や仲間づくりを担う。

○幅広い鑑賞事業

乳幼児から高齢者、障害を持った人や外国人等、さまざまな人がストレスなく芸術文化を楽しみながら鑑賞できる環境を整える。また、家庭環境や経済的にホールへ来ることができない人を支援する。

長岡リリックホールは、芸術顧問・故 三善晃氏の提言「みんなのホール」をコンセプトに、地域に開かれた芸術文化の拠点施設として、存在意義を高めてきた。平成19年度から、日本を代表する劇団「文学座」と地域拠点契約を、平成27年度から「東京フィルハーモニー交響楽団」と事業協定を結び、年間を通じて、幅広い年齢層の市民に、長岡リリックホールを拠点に、保育園、小中学校、社会福祉施設、コミュニティセンター等、さまざまな会場で市民と交流しながら演劇事業や音楽事業を展開している。さらに、合唱、ミュージカル、弦楽器の分野でジュニア育成事業を推進し、子供たちの情操・人材育成に力を入れ、他事業とリンクさせながら、プロとの共演や交流を図り、事業を組み立てた。演劇、音楽、伝統芸能など、偏ることのないよう事業計画を行い（外部有識者による事業企画審査委員から助言をいただいている。）鑑賞の機会、参加の機会を提供できた。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

当ホールは、鑑賞や施設利用の機会を提供するだけでなく、その主たる役割を果たすものではなく、公演の鑑賞機会の提供や、表現を行う文化団体への活動の提供に留まらず、子どもや青少年、高齢層の多様な年齢層にとって必要不可欠な拠点であると共に、芸術文化振興だけでなく、誰もが集う新しいコミュニティとして、「創造の場」「発表の場」の役割を担いながら、市民から一定の評価を得てきた。楽器、合唱、演劇、ミュージカルなど、様々な参加型人材育成事業により、芸術文化活動の持つ魅力を参加者を通じて、地域に還元することができた。また、リピーターや口コミでの広がりにより、当ホールを拠点に芸術文化活動が広がりを見せている。

様々な世代が参加している特に演劇ワークショップでは、文学座の俳優によるコミュニケーションに特化したワークショップを展開するなど、演劇の手法により、コミュニケーションの重要性と、そこから生まれる人間力や共感性、共生の心を育てることができた。東京フィルコミュニティコンサートでは公共施設及び福祉施設に出向いて無料で演奏を行うもので、あらゆる場所で一流の音楽を聴く機会を提供し、音楽を身近に感じ、楽団員との交流で生きる力を育むことができた。リリック子ども音楽館やママコンサートなど、単に芸術文化に触れる機会を提供するだけでなく、同様な悩みを持つ子育て世代や同世代が集う催しを実施することで、新たなコミュニティや仲間づくりに寄与することができた。伝統文化に触れる機会を提供するため、野村万作・萬斎が主宰する「万作の会」による狂言ワークショップを実施し、子どもたちに伝統芸能の奥深さを学ぶ機会を提供した。また、「リリックホールコーラスフェスティバル」や「リリックジュニアフェスティバル」を実施することで、高齢者や子どもたちの同世代が集う場を提供し、それぞれに活発な交流の場を提供することができた。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

当ホールが目標とした点は以下の3点である。

(1) 当ホールのコンセプトとなる「みんなのホールプロジェクト」の実現に向けて、幅広い世代の鑑賞・参加を推進する。

(2) 当ホールのコンセプトとなる「みんなのホールプロジェクト」の実現に向けて、幅広い世代を対象とした様々なジャンルの育成プログラムにより芸術文化活動に関わる人材を育成する。

(3) 当ホールのコンセプトとなる「みんなのホールプロジェクト」の実現に向けて、芸術文化に関心を持つ人材の裾野の拡大を図る。

(1) を実現するにあたり、子供・高齢者・障害者、世代による分け隔てのない [unlimited] を意識した集客を実践する。

(指標)

単なる入場率ではなく、特に子供や高齢者に特化した入場率・参加割合・満足度を分析し、前年度からの充実を図る。

●0歳～19歳までに特化した入場率・参加率・満足度の前年度からの10%アップ

●60歳～80歳以上までに特化した入場率・参加率・満足度の前年度からの10%アップ

●友の会の新規会員の加入率の前年度からの10%アップ

(2) を実現するにあたり、芸術文化により深く関心をもち、次世代の劇場の活動を支える観客、芸術文化活動を担い支える人材育成を図る。

(指標)

●ジュニア世代における将来における芸術文化活動への自主的参加希望率80%以上を実現させる。

●シニア世代における芸術文化活動に触れる機会の提供満足度80%以上を実現させる。

(3) を実現するにあたり、社会包摂の観点から、経済的格差や身体的格差に関係なく、芸術文化に触れる機会を提供する。

(指標)

●当該事業を体験した参加者を対象にアンケートを実施し、事業を通じて芸術文化を身近に感じるようになった割合70%を実現させる。

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

助成対象事業における事業期間については、公演事業で8日間、人材養成事業で137日間、普及啓発事業で17日間を要し、合計162日間の期間において、事業を展開した。これは、人材育成事業による練習日等をカウントしている数字ではあるが、楽器、合唱、演劇、ミュージカルなど、様々な参加型人材育成事業により、芸術文化活動の持つ魅力を参加者を通じて、地域に還元することができた。また、リピーターや口コミでの広がりにより、当ホールを拠点に芸術文化活動が広がりを見せている。事業期間の超過、または短縮は行っておらず、概ね順調に事業が進行したものと考えられる。

事業費（総支出）に関しては、当初予算として公演事業／15,687(千円)、人材養成事業／9,914(千円)、普及啓発事業／13,666(千円)で、助成対象事業経費として合計39,267(千円)を見込んでいた。

最終的な決算事業費（総支出）は、公演事業／12,633(千円)、人材育成事業／5,784(千円)、普及啓発事業／11,684(千円)となり、合計30,101(千円)となった。人材育成事業の一部で、事業を行うなかで方向性や予算計画に変更が生じた部分もあるが、当初見込んでいた予算額を超えることなく、事業を進めることができた。また、今回の助成により負担を軽減することができ、事業の質を高めることができた。

収入（総収入）に関しては、当初予算として公演事業／8,060(千円)、人材育成事業／1,785(千円)、普及啓発事業／600(千円)で、助成対象事業収入として合計10,445(千円)を見込んでいた。

最終的な決算収入（総収入）は、公演事業／7,199(千円)、人材育成事業／1,910(千円)、普及啓発事業／589(千円)となり、合計9,698(千円)となった。当初予算と比較して747(千円)の減収となったことは、反省材料として重く受け止めている。

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

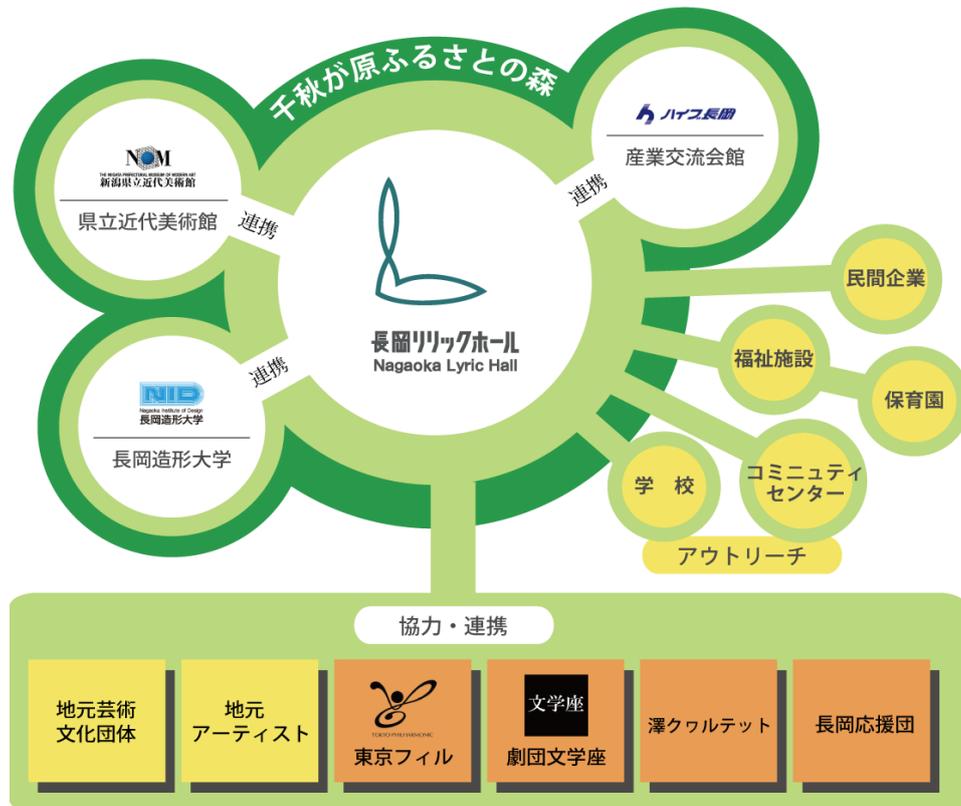
長岡リリックホールは、市制施行90周年の平成8年11月1日、地域に根づいた文化活動の「創造の場」「発表の場」として開館した。芸術顧問・故 三善晃氏の提言「みんなのホール」をコンセプトに、地域に開かれた芸術文化の拠点施設として、存在意義を高めてきた。

平成19年度から、日本を代表する劇団「文学座」と地域拠点契約を、平成27年度から「東京フィルハーモニー交響楽団」と事業協定を結び、年間を通じて、幅広い年齢層の市民に、長岡リリックホールを拠点に、保育園、小中学校、社会福祉施設、コミュニティセンター等、さまざまな会場で市民と交流しながら演劇事業や音楽事業を展開している。さらに、合唱、ミュージカル、弦楽器の分野でジュニア育成事業を推進し、子供たちの情操・人材育成に力を入れ、他事業とリンクさせながら、プロとの共演や交流を行っている。当財団マネジメントアドバイザー・衛紀生氏の助言を受けながら、これまで22年間の実績を体系的に相互に繋げ、「みんなのホールプロジェクト」として、芸術文化の持つ力で、コミュニティ形成と社会的役割を担っている。

長岡リリックホールの使命は地域住民にとって誰もが平等に共有できる幸せな時間・場所づくり【芸術文化による社会包摂・コミュニティ形成】と考えており、乳幼児から高齢者、障害を持った人が、“楽しめる時間”を提供すること、また芸術文化をとおして、年齢や性別、障害に関わらず、人と人の”コミュニケーションの場”を提供すること、更にこの“時間”や“場所”を、誰もが気軽に体験できる施設が長岡リリックホールであると位置づけている。

長岡リリックホールは、信濃川を望む文化の発祥地・千秋が原ふるさとの森に位置し、周辺には美術館や大学、産業交流会館がある。各施設と連携して事業交流を行い、人と人が交流し、相乗効果を生み出している。また、保育園や小中学校・高校の子供たち、地元芸術文化団体等が「創造の場」「発表の場」として集い、施設に親しみを持っている。長岡リリックホールからは、東京フィルや文学座のアーティストが保育園や学校、福祉施設等へ出向き、アウトリーチやワークショップを通して交流している。恵まれた環境と豊富な人材交流により、芸術文化の拠点施設としての役割を担っている。

長岡リリックホールの地域特性と活動・連携



【創造性】

自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

【長岡リリックホールの地域文化芸術への貢献】

○地域拠点事業の活用

東京フィルや文学座のネットワークやノウハウを活用し、地域に根付いた公演やワークショップを開催。保育施設や学校、福祉施設等へプロのアーティストと出向き、積極的に交流し、教育現場や福祉現場、地域の課題解決に貢献した。

○市民協働事業の推進

東京フィルや文学座、地元文化団体等と連携して、社会包摂的市民参加型事業を開催し、発信する。（東京フィルコミュニティコンサートなど）

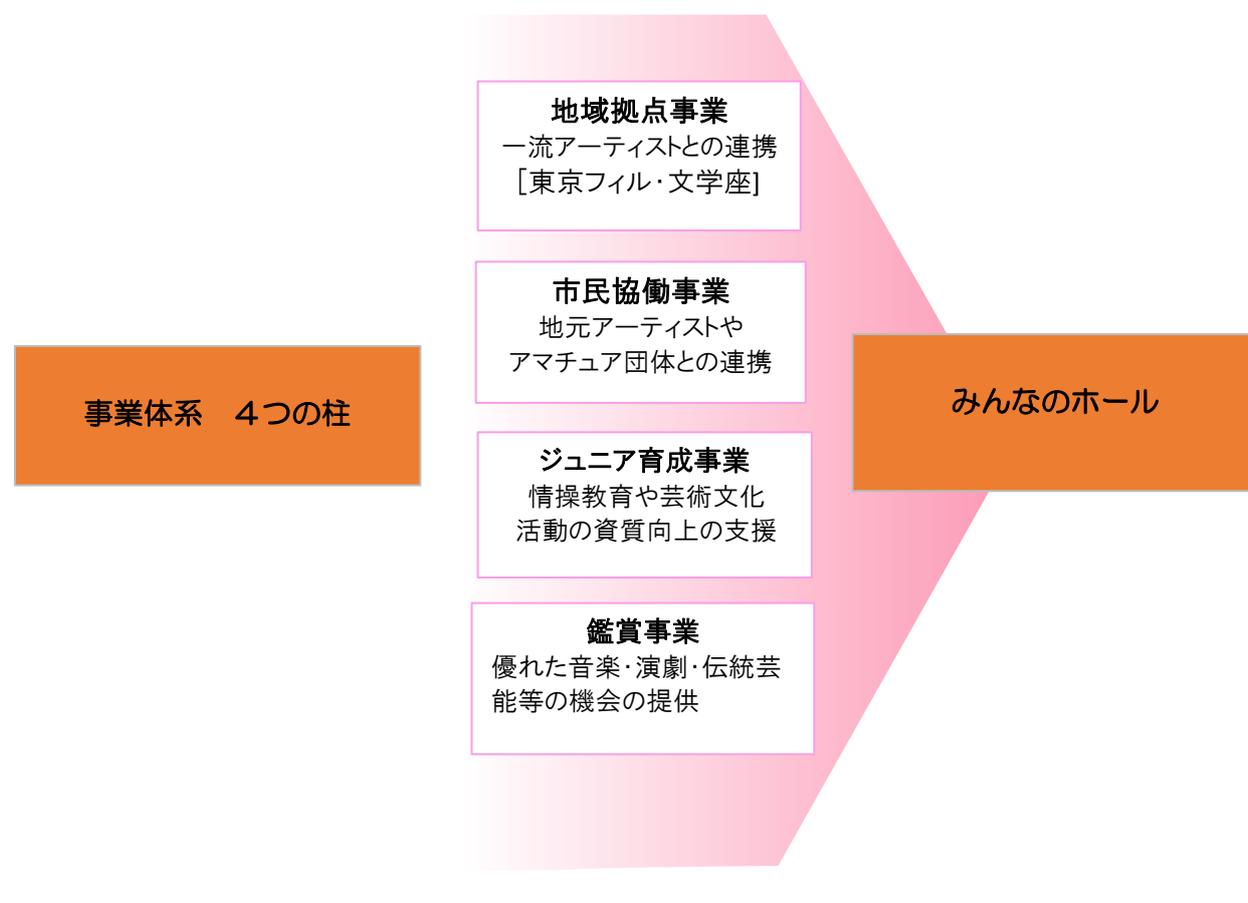
○ジュニア育成事業の推進

未来を担うジュニア世代の情操と人材育成のために、芸術文化に親しむ場と技術向上の機会を提供する。また、東京フィルや文学座、アーティストと共演する機会を提供し、出演者等との交流や仲間づくりを担っている。

○幅広い鑑賞事業

乳幼児から高齢者、障害を持った人や外国人等、さまざまな人がストレスなく芸術文化を楽しみながら鑑賞できる環境を整える。また、家庭環境や経済的にホールへ来ることができない人を支援した。特に力を入れている東京フィルハーモニー交響楽団との提携事業においては、東京フィルアウトリーチ事業として、保育園、小中学校、コミュニティセンターなど市内全域の20か所で、会場・対象に応じた楽器編成と曲目で、首席奏者を中心に、クラシック音楽の垣根をできるだけ低くしながら相互交流を図った。

“みんなのホール”をコンセプトに、東京フィルハーモニー交響楽団や劇団文学座との提携事業やジュニア育成事業により文化による人づくりを推進していると評価され、平成30年度地域創造大賞（総務大臣賞）を受賞することができた。



【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

【劇場・音楽堂館のネットワークの形成】

事業の組み立てについては、県内の他の文化施設との情報交換を行うことにより、同種の企画が同時期に被らないように、配慮している。

【安定的な収益基盤と財源確保の取り組み】

外部資金を戦略的に捉え、日頃から、助成金の情報収集や企業に協力・協賛を依頼できる関係づくりを行うと共に、ノウハウを蓄積するなど、積極的に外部資金の獲得・活用に努めている。

【PDCAによる改善】

PDCA（Plan→Do→Check→Action）のサイクルの中で、施設の役割・目的や目標を達成したかどうか、事業によって期待する成果が得られたかどうか、住民がサービスの内容や質に満足しているかどうか、円滑な運営が行われているかどうか、経営の効率化が図られているかどうか、といった観点・視点から、事業の運営や点検が行い、改善を図っていく。その過程を通して、事業や施設運営の問題点、課題を把握し、具体的な改善策を検討していくことが機能強化につながると考えている。

【会員の獲得】

会員数は年々上昇を続け、収益も安定した結果を残せている。これは、提供する事業に市民から一定の評価を得ているものと推測できる。

平成25年度の会員数は726名（会費収入1,298,000円）に対し、平成30年度は1,214名（会費収入2,098,000円）にまで増えてきている。

【情報収集提供及び調査研究事業】

文化情報誌「リリック通信」の発行、情報ラウンジの運営としてチケット販売をはじめとする各種サービスの提供、芸術関係雑誌・資料の収集と提供を行っている。また、全国公立文化施設協会主催の「全国劇場・音楽堂等アートマネジメント研修会」や「アートプロデュース講座」等への参加、県内外の調査研究視察を行っている。